

# 工事写真帳作成要領

## (建築系工事) 修繕工事・改修工事用

### I. 竣工写真帳

竣工写真帳と工程写真帳は原則別冊とするが、小規模工事の場合は、監督員と協議のうえ、工程写真帳と合冊できる。

#### 1. 編集要領

(1) 以下の要領で、アルバムの表紙に必要事項を記載する

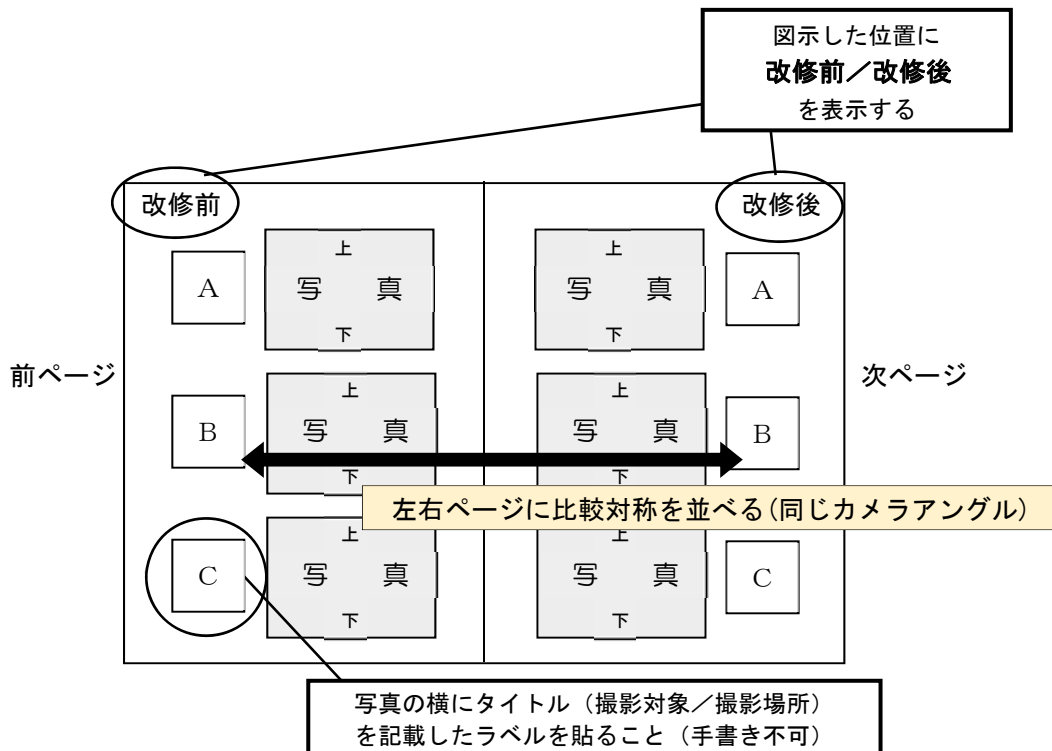
a) 表紙記載事項

- ・ 工事番号
- ・ 工事名
- ・ 工事場所
- ・ 竣工写真
- ・ 竣工年月
- ・ 受注者名

工事番号 XX 猪口第XXX号
工事名 OOOOOOOO工事
工事場所 猪名川町OO1丁目1番地
竣工写真
令和〇〇年〇月竣工
受注者 OOOO会社

(2) 原則、以下の要領でアルバムを作成する

- 見開き左ページに改修前の写真、右ページに改修後の写真を掲載する。
- 1 ページに掲載する写真の数は2～3枚とする。(サイズはd)項による)
- 写真は全て横向き・同じサイズで統一する。



d) 提出写真分類／提出区分／サイズ／提出部数／アルバム形式

分類	提出区分(註1)			写真サイズ	部数	アルバム形式
	A	B	C			
竣工写真(1)	○			サービス版 (89mm×119mm以上)	2	工事写真アルバム(コクヨ ア-291程度)
竣工写真(2)		○	○	キャビネ版 (120mm×165mm以上)	2	化粧アルバム(コクヨ ア-124程度)
竣工写真(3)		○		230mm×280mm以上	1	木製パネル
竣工写真 (修繕)	/	/	/	サービス版 (89mm×119mm以上)	1	工事写真アルバム

(注) 区分A・・・請負金額1,000万円未満の工事・修繕に適用する。

区分B・・・請負金額1,000万円以上の工事に適用する。(竣工写真(3)は、新築・増築・改築工事のみ)

区分C・・・分離発注された建築工事以外の工事で請負金額3,000万円以上の工事に適用

(3) 写真の印刷

- a) フィルムカメラで撮影した場合は、印画紙を使用する。
- b) デジタルカメラで撮影した場合は、上記(2)に示すページ設定に準じた印刷フォームで印刷するものとし、使用する用紙は次による。

※ 印刷用紙の仕様：コクヨKB-F259N及び同等品以上とする。

(紙厚:0.1mm、白色度82%程度)

なお、印刷が明瞭でない場合は、再提出を求める場合がある。

(4) 写真データの提出

- a) フィルムカメラで撮影した場合は、ネガフィルムをA4版ネガフォルダーに整理して提出する。
- b) デジタルカメラで撮影した場合は、写真データをCD-R又はDVDに保存して提出する。ただし修繕工事は対象外とする。
  - ・ CD-R等には、必要事項(工事番号、工事名、撮影場所、竣工写真、竣工年月、受注者名)を記載したラベルを貼付する。
  - ・ 写真データにタイトル(撮影対象、撮影場所)を入力する。

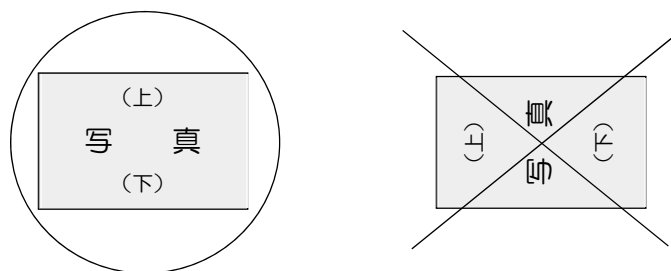
(5) 原則、改修場所は全て掲載する。

ただし、同一用途・規模・内観が同じ工事内容の改修場所は、監督員の指示により省略することができる。

(6) 竣工写真のアルバム掲載順は、原則として「全体→部分」「外観→内観」とし、詳細は監督員の指示による

## 2. 撮影要領

- (1) 原則、画面は横向きで撮影する。ただし、高尺物にあつては縦向きでの撮影を可とする。



- (2) デジタル撮影する場合の有効画素数は「300万画素以上」とする。
- (3) 撮影対象が明確に視認できるように撮影する。
- (4) 写真の信憑性を考慮し、写真編集は認めない。
- (5) 改修前と改修後の写真アングルはできる限り同一のアングルで撮影する。  
※ 改修後の写真撮影は、改修前写真と見比べながら撮影する。
- (6) 外観写真について
- (a) 晴れの日撮影する。(特に改修工事に関しては要注意。)
- (b) 改修部分だけでなく、建物全体の写真も撮影する
- (7) 内観写真について
- (a) 画面の明るさを十分に確保する。(撮影対象に照明を当てる等工夫する。)
- (b) 工事に直接関係の無い備品等は写さない。  
※ 改修前は現況、改修後は備品搬入直前のタイミングで撮影する。  
※ 竣工写真アルバムには掲出しないが、状況写真として家具調度が入った写真も撮影しておく。
- (c) 改修部分だけではなく、周囲全体の写真も撮影する。
- (8) 改修後の写真は、美装が完了した後に撮影する。
- (9) 竣工写真には、施工関係物品や作業員等が写り込まないように注意する。特に、鏡やガラス面等には注意を要する。
- (10) 工事目的を明確に表した写真を撮影する。  
(例) 耐震補強工事及び大規模改造工事で一室全体を改修した場合、鉄骨ブレース等の耐震補強部分が必ず写るように撮影する。等
- (11) 改修前の写真撮影終了後は、速やかに工事写真帳を作成し、監督員の検査を受ける。検査に合格しない場合は、施工に着手できない。ただし、修繕工事は対象外とする。
- (12) 着工前状況写真のデータは、CD-R又はDVDに保存し、監督員に提出する。ただし、修繕工事は対象外とする。
- (13) 参考図書  
国土交通省監修「工事写真撮影ガイドブック(建築工事編ほか各工事編)」〈最新版〉

## II. 工程写真帳

竣工写真帳と工程写真帳は原則別冊とするが、小規模工事の場合は、監督員と協議のうえ、竣工写真帳と合冊できる。

### 1. 編集要領

(1) 以下の要領で、アルバムの表紙に必要な事項を記載する

(a) 表紙記載事項

- ・ 工事番号
- ・ 工事名
- ・ 工事場所
- ・ 竣工写真
- ・ 竣工年月
- ・ 受注者名

工事番号 XX 猪口第XXX号

工事名 ○○○○○○○○工事

工事場所 猪名川町○○1丁目1番地

工程写真

令和○○年○月竣工

受注者 ○○○○会社

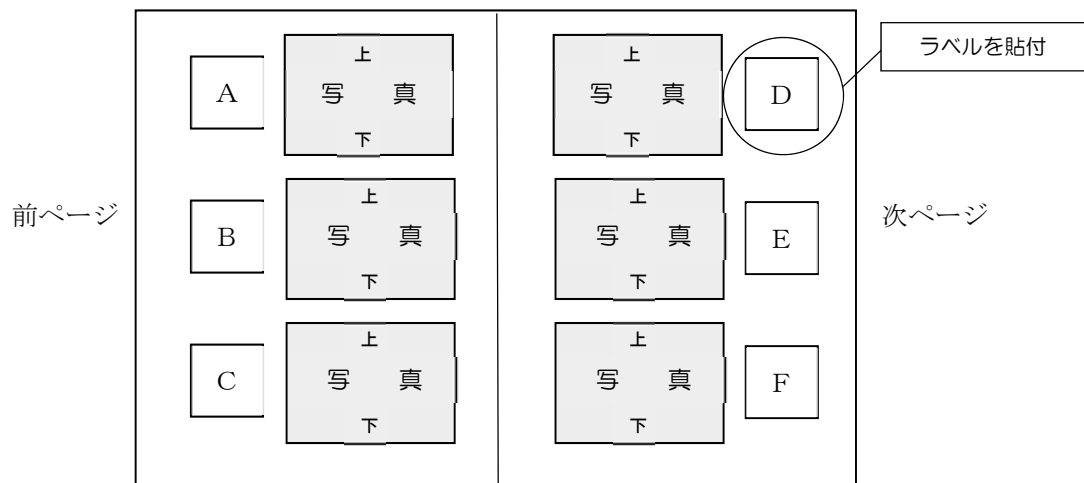
(2) フィルムカメラで撮影する場合

原則、以下の要領でアルバムを作成する。

- a) 1 ページに掲載する写真の数は3枚とする。
- b) 写真は全て横向き・同じサイズで統一する。
- c) 写真の横に必要な事項記載したラベルを貼付する。
- d) ネガフィルムは、A4版ネガフォルダーに整理して提出する。

<ラベル記載事項>

- ・ 撮影対象、撮影場所……………(例)本館南側縦樋、北校舎棟○階○○教室
- ・ 工事種目……………(例)防水工事、コンクリート工事、鉄筋工事
- ・ 材料、施工状況……………(例)プライマー材料名○○、タンピング状況、壁配筋
- ・ 各工程の必要事項……………(例)スランプ値、鉄筋径・ピッチ、下塗り回数



・ 提出写真分類／写真サイズ／提出部数／アルバム形式

分類	写真サイズ	部数	アルバム形式
工事写真	サービス版 (89mm×119mm以上)	2	工事写真アルバム(コクヨ A-291程度)

(3) デジタルカメラで撮影する場合

- a) 上記(2)の設定に準じたページデザインで作成する。
- b) デジタル写真印刷に適応した用紙を使用する。印刷が明瞭でない場合は、再提出を求める場合がある
- c) 写真データは、CD-R又はDVDに保存し、監督員に提出する  
提出するCD-R等には必要事項(工事番号、工事名、撮影場所、竣工写真、竣工年月、受注者名)を記載したラベルを貼付する。
- d) 写真内の小黑板情報について電子化としてもよい。  
※ただし電子化の仕様については監督員と協議のうえ、承諾を得ることとする。

## 2. 撮影要領

(1) 下記工事部分の施工状況及び監督員の指示する箇所を写真撮影する。

詳細は、建設大臣官房官庁営繕部監修「工事写真の撮り方」(建築編、建築設備編)最新版を参照。

(a) 建築工事

- ① 仮設工事及び仮設物(完成後、成果として残らないため特に注意して撮影する。)
- ② 掘削完了(設計寸法検尺)地業完了
- ③ 鉄骨主要柱と基礎アンカーボルト取付部
- ④ 鉄筋配筋修正(各設備配管完了後)及び補強等手直し工事を完了し、コンクリート打設前の状態
- ⑤ 主体工事(躯体)完了状態
  - ・ 木造にあつては、上棟、補強金物締付完了時
  - ・ 鉄筋コンクリート造にあつては、コンクリート打設完了時(型枠を取り外した状態)
  - ・ 鉄骨造にあつては、ボルト本締完了時
- ⑥ 防水工事(各所)施工工程
- ⑦ 屋根葺工事の作業工程
- ⑧ 金属製建具の取付作業工程
- ⑨ 出入口枠等の取付作業工程
- ⑩ 仕上材等により隠蔽される下地類(天井下地、壁下地、床下地等)の完了状況

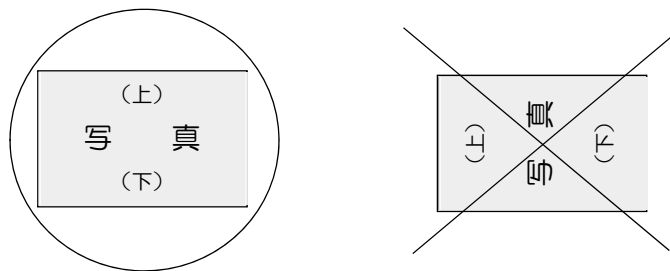
(b) 電気設備工事

電線管の地中埋設状況(埋設深さが判別できるように)、コンクリート打設直前の配管布設状況、最上階床版、外壁、間仕切壁等の配管状況、分電盤廻りの配管状況等(特にコンクリート型枠を脱型後の状態)の撮影には特に注意を要する。

(c) 機械設備工事

給排水配管の地中埋設状況(埋設深さが判別できるように)、給水管外壁立上り、立下り配管施工状況、汚水管と便器との取り合い状況、受水槽、給水管、溢水管(イッスイ)の状況、地中埋設オイルタンク基礎施工状況の撮影には特に注意を要する。

(2) 原則、画面は横向きで撮影する。ただし、高尺物にあつては縦向きでの撮影を可とする。



(3) 黒板の文字及び撮影対象が明確に視認できる画質で撮影する。

(4) 写真の信憑性を考慮し、写真編集は認めない。

(5) 撮影対象と同一画面で黒板(必要事項を記載したもの)を撮影する。

(a) 黒板記載事項

- ・ 工事番号…………… (例)30猪建第01号
- ・ 工事名(正式名称)……… (例)猪名川町立〇〇学校耐震補強工事
- ・ 撮影対象、撮影場所…… (例)本館南側縦樋、北校舎棟〇階〇〇教室
- ・ 工事種目…………… (例)防水工事、コンクリート工事、鉄筋工事
- ・ 材料、施工状況…………… (例)プライマー材料名〇〇、タンピング状況、壁配筋
- ・ 受注者名…………… (例)〇〇建設株式会社
- ・ 各工程の必要事項……… (例)スランプ値、鉄筋径・ピッチ、下塗り回数

(b) 黒板にフラッシュ光が反射しないように角度を調整する。

(6) 工事検査が必要な項目については、必ず検査した全箇所を撮影する。

※ 検査結果を黒板に記録し、撮影する。

(7) 寸法確認が必要なものについては、撮影対象に箱尺・巻尺(コンベックス等)を添え、所要寸法が明確に読み取れるように撮影する。

(例) 鉄筋の配筋ピッチ、スタッドとアンカーのラップ長、防水シートの重ね寸法 など

以上